

新年度を迎えるにあたって

新年度を迎えて

平素より神戸朝日病院の診療に格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年度も、地域の皆さま、関係医療機関の皆さまの温かいご支援に支えられ、多くの患者様との大切なご縁をいただくことができました。その一つひとつに、スタッフ一同、真摯に向き合い続けてまいりました。皆さまのご厚情に、深く感謝申し上げます。

「治し支える医療」という理念のもとに

当院が変わらず大切にしているのは、「治し支える医療」という理念です。一人ひとりの患者様と真剣に向き合い、質の高い診療をお届けすることはもちろん、その先の生活をともに支えることこそが医療の本質と捉え、患者様に寄り添い続けてまいりました。また、阪神大震災を乗り越えた神戸を象徴する「BE KOBE」の精神を礎に、人と人とのつながりを大切にしながら、それぞれの歩みに誠実に向き合うことを、私たちの取り組みの根幹に置いています。

どれだけ積み重ねた実績があろうとも、目の前の患者様にとっては「今この瞬間の医療」がすべてです。その原点を忘れることなく、謙虚に、しかし確かな自信と責任をもって、日々の診療に全力で臨んでまいります。

新たな体制と、診療力のさらなる充実

本年度は、泌尿器科・総合診療科の浜口守先生、訪問診療の渡部博明先生をはじめ、頼もしい仲間を新たに迎えました。充実した体制のもと、より安全で質の高い医療をお届けできるよう、チーム一丸となって取り組んでまいります。

地域とともに歩む病院として

「治し支える医療」を病院の枠を超え、地域へと広げていくことが、これからの当院の大きな使命と考えております。訪問診療・在宅医療のさらなる充実を図り、入院から在宅まで切れ目のない医療を実現することで、この神戸の地で安心して暮らせる環境づくりに貢献してまいります。地域の医療機関・介護事業所の皆さまはもとより、行政や医療介護サポートセンター、あんしんすこやかセンターなど、地域を支えるさまざまな機関との連携をさらに深め、病院と地域が一体となった医療・ケアの体制を築いてまいります。

これからも神戸朝日病院は、地域の皆さまの健康と暮らしを支える病院として、この神戸の地に寄り添い続けてまいります。引き続きご指導、ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



KOBE
ASAHI
HOSPITAL

医療法人社団 秀英会 神戸朝日病院

院長 ^{きん} 金 ^{すき} 秀基



当院HP



外来体制表



Facebook



Instagram

新任医師のご紹介

泌尿器科 総合診療科

はま ぐち まもる

浜口 守 先生 (近畿大学 平成28年卒)

日本泌尿器科学会 専門医

日本排尿機能学会

日本透析医学会

外来担当 月(午前診)、木(午前診)、土(午前診)



MAMORU
HAMAGUCHI

【浜口先生よりひと言】

夜中に何度もトイレで目が覚めるあなたへ

～夜間頻尿に隠れた「体のサイン」を知りましょう～

「トシのせいだから仕方ない」と諦めていませんか？夜間に1回以上トイレに起き、それによって生活に支障を感じる状態を夜間頻尿と呼びます。

実は夜間頻尿には、「尿の通り道(泌尿器科)」と「全身の健康状態(腎臓内科・内科)」の両方の視点からのチェックが欠かせません。

1. 泌尿器科の視点:膀胱の「貯める・出す」トラブル

泌尿器科では、主に尿の通り道や、膀胱そのものの機能を調べます。

- 前立腺肥大症(男性に多い)
尿の出口にある「前立腺」が大きくなり、尿道を圧迫します。尿がスッキリ出きらず、常に膀胱に尿が残る(残尿)ため、すぐに膀胱がいっぱいになってしまいます。
- 過活動膀胱
膀胱が過敏になり、尿が十分に溜まっていないのに勝手に収縮してしまう病気です。急な尿意に襲われ、夜間も膀胱が勝手に動いて目が覚めてしまいます。

2. 腎臓内科・内科の視点:体内の「水分・血圧・呼吸」のトラブル

腎臓内科的な視点では、尿を作る「量」や、全身のバランスに

注目します。

- 慢性腎臓病(CKD)と高血圧
腎機能が低下すると、尿を濃縮して量を調節する力が弱まり、薄い尿が大量に出るようになります。また、高血圧や塩分の摂りすぎは、夜間に水分を排出しようとする体の働きを強め、尿量を増やします。
- 睡眠時無呼吸症候群(SAS)
意外かもしれませんが、「いびき」や「無呼吸」は夜間頻尿の大きな原因です。無呼吸で苦しくなると、心臓に強い負担がかかります。すると心臓から「体内の水分を減らして負担を軽くしろ!」という指令(ホルモン)が出て、寝ている間に腎臓がせっせと尿を作ってしまうのです。

大切なのは「原因を見極めること」

夜間頻尿は、単なる睡眠不足だけでなく、夜間の転倒・骨折のリスクも高めます。

- 「膀胱に溜められない」のか
- 「寝ている間に尿が作られすぎている」のか

原因によって治療法は全く異なります。まずは「いつ、どのくらいの量の尿が出たか」を記録する排尿日誌をつけることから始めてみませんか？気になる症状があれば、お気軽にスタッフまでご相談ください。

在宅医療 救命救急科

わた なべ ひろ あき

渡部 博明 先生 (和歌山県立医科大 平成31年卒)

日本救急医学会 救急科専門医

日本集中治療医学会

厚生労働省認定 緩和ケア研修会修了

臨床研修指導医講習会修了



【渡部先生よりひと言】

はじめまして。2026年4月に着任しました渡部博明です。私はこれから神戸朝日病院で「在宅診療」を担当します。

もともとの私の専門は実は救急科と言って、救急外来や集中治療室での急性期疾患を対象にしてきました。今回縁があって神戸朝日病院の在宅診療に関わることとなりましたが、一見関係が薄いように見えて深く関わっているのが救急と在宅診療です。

在宅診療は、病院への通院が難しくなった場合に導入できます。ご自宅や施設に医師が赴いて、訪問看護を受けるように診察を受けてもらい、自宅で可能な限りの診療を継続するものです。病院に行かなくても自宅を病院のようにできる、「地域全体を診る」のが在宅診療です。

一方で、急病や怪我などのいざという時の診療はどうなるのかと疑問に思うかもしれません。そこで私が経験してきた救急診療が生きてきます。私は、救急科として沢山の急病患者さんをみてきましたので、「これは救急車を呼んでほしい」「これは病院に行かなくてもいいよ」などの判断を得意としています。

また、在宅診療は、病院や施設でしか生活ができないと諦めていた患者さんの、自宅へ帰る架け橋にもなれます。もちろん、病態にもよりますが、慣れ親しんだ自宅で生活を取り戻すことや、人生の最後を過ごせるようになるというのは、在宅診療ならではの特征といえます。

最後に、私が大切にしているのは「患者さんとそのご家族の『日常』を守る」ということです。救急の現場では、命を救うための「一瞬」に全力を注いできました。しかし、そこには常に、病気や怪我によって突如として断ち切られてしまった、一人ひとりの穏やかな暮らしがありました。在宅診療においては、その断ち切れそうな暮らしの糸を、医療の力で丁寧に繋ぎ合わせていきたいと考えています。

「最期まで自分らしくいたい」「大切な人を家で看取りたい」といった願いに、正解はありません。だからこそ、地域の皆様にとって最も身近で、最も頼りになる相談相手でありたいと願っています。病気のことだけでなく、生活の中でのちょっとした困りごとからでも構いません。これからこの神戸の地で、皆様の健やかな生活を支える一助となれるよう、誠心誠意努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



TOPICS

口から支える 心と身体の健康

リハビリテーション科 歯科衛生士 浅井 李美

身体と口の健康は密接に関わっています。体調や病気の状態によって、口の中の環境も日々変化します。入院中、汚れや痛み、乾燥などの不快があっても我慢されている患者様は少なくありません。病気や認知症の影響で伝えることが難しい方もいらっしゃいます。

そのような時に、少しでも気持ち良く過ごしていただけるよう、歯科衛生士としてお手伝いしています。

主な仕事は、入院患者様への口腔ケアや歯磨き指導、全身麻酔手術前の口腔ケアです。

口の中を清潔に保ち細菌の増殖を抑え、食べ物や唾液と共に細菌が肺に入ることによって起こる誤嚥性肺炎を予防する役割もあります。また、歯や入れ歯の応急処置が必要な場合には、訪問歯科診療へつなぐ橋渡しも担っています。

私が学生の頃、「口は命の入口、心の出口」という言葉に出会いました。口は食べることで命を支える入り口であり、呼吸の入口でもあります。同時に、話す・笑うなど気持ちを伝える「心の出口」でもあります。この言葉は今も私の大切な軸になっています。

どのような状況の患者様も、口の中を清潔に保ち、爽やかさや心地よさを感じていただきたい。その時間が安心や穏やかな気持ちにつながるようお願いながら、口腔ケアを通して患者様を支えられるよう、心を込めて関わっていきたくと思っています。



EVENT

「まちの病院博」に参加しました

3月28日(土) 兵庫区・長田区の7病院が初めて1つのチームとなり、新長田駅前ひろばで合同イベント「まちの病院博」を開催しました。地域の皆さまに病院を身近に感じていただき、子どもたちに医療の仕事への関心を持ってもらうことを目的としたイベントです。

会場では医療体験や縁日、救急車の展示などが行われ、当院からは「なくら・さかみちコーヒー部の"コーヒーじい"」が参加。教室やスクールで磨いたこだわりの一杯を来場者の皆さまにふるまいました。地域の中で育った活動が、まちへ出ていく。そんな一日となりました。

※なくら・さかみちコーヒー部は、当院が地域住民・企業・行政とともに参画する「なくら・さかみち協議会」の活動から生まれた取り組みです。



認定施設

- 二次救急指定
- 兵庫県肝疾患専門医療機関
- 日本肝臓学会認定施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本消化器内視鏡学会認定施設
- 臨床研修指定(神戸大協力型)
- 日本医療薬学会認定薬剤師研修施設
- 日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
- 日本臨床栄養代謝学会NST稼働認定施設
- 日本IVR学会専門医修練認定施設
- 神戸市立医療センター中央市民病院 内科専門研修プログラム特別連携施設
- 日本外科学会外科専門医制度関連施設

医療法人社団 秀英会

神戸朝日病院

住所: 神戸市長田区房王寺町3丁目5-25

電話: 078-612-5151

<https://www.kobe-asahi-hp.com>

神戸電鉄「長田駅」より徒歩5分

神戸市営バス③・⑥・⑪・④⑩・⑫

「房王寺町5丁目」バス停より徒歩5分

